

花ちゃん、オー君、モンタ博士のわくわくドキドキ冒険記2

国立市立国立第七小学校

平成26年9月19日 NO.40 (140)

- 花ちゃん 「ねえ、オー君。このごろとても涼しくなってきたね。」
- オー君 「そうだね。夏のように気温が30度をこす日もなくなり、よかったね。」
- 花ちゃん 「いよいよ夏も終わりですね。いよいよ楽しみな秋の始まりですね。」
- オー君 「『食欲の秋』と言うんだろう。何だか、ぼく、とってもおなかがへってきちゃったよ。グー……。」
- 花ちゃん 「くいしんぼうですね。オー君は……。秋と言えば、『芸術の秋』とか、『スポーツの秋』とか『読書の秋』とか言うのよ。」
- モンタ博士 「そうだね。まだたまに暑い日もあるけど、吹く風に秋を感じるね。ところで、秋と言えば、『……の秋』とかあるけど、『てくてくの秋』なんてどうかな。学校の近くをてくてくしていろいろ発見しよう。」
- 花ちゃん 「そうですね。モンタ博士の言うとおりの教室にはかりないで、あちこちとてくてくしましょう。秋の花もいっぱい咲き始めているでしょうね。」
- オー君 「そうだ。みんなで甲州街道を渡って、緑の林の続く『ハケ』のほうに行ってみようよ。」
- 花ちゃん 「賛成です。1学期に2年生と3年生が行った、レンゲソウの花がいっぱい咲いているあたりですね。」
- オー君 「そうだよ。あの『ハケ』のあたりには、下に水も流れていて、きっといろいろな生き物もたくさんいるぞ。こりゃおもしろくなってきたぞ。」
- 花ちゃん 「さあ、みんなで行きましょう。レッツ・ゴー！」
- ということで、3人でてくてくと出かけていきましたとさ……。
- オー君 「あれ？あそこに何か白い花がさいているよ。近くに行ってみよう。」



センニンソウ



オー君 「この白い花は何ていうのかな。花ちゃん、知ってる。」

花ちゃん 「これは、たしか・・・『センニンソウ』というお花ですね、モンタ博士。」

モンタ博士「そのとおり。さすがは植物博士の花ちゃんだね。感心しちゃうね。」

オー君 「せんニン？1000人がどうかしたの？」

花ちゃん 「そうじゃないわよ。でも、どうしてセンニンソウという名前なのかな。」

モンタ博士「それはね、センニンとは『仙人』ということだよ。花のあとに、種にたくさん
の毛がつくんだ。それを仙人のひげのように見立てて名前をつけたんだよ。」

オー君 「なーるほど。そういう意味があるんですか。こりゃ、花のあとが楽しみだな。」

花ちゃん 「そうね。みんなでまた来ましょう。それにしても、植物の名前というのはね、
それなりの意味があるんですね。もっといろいろな花を探して調べましょう。」

オー君 「そういえば、国立七小のある子は、夏休みの自由研究で100種類の植物を
調べてたらしいよ。写真もいっしょにあってすごいんだって。」

花ちゃん 「すごーい。立派ですね。感心しますね。わたしも来年がんばろう！」

モンタ博士「すてきな自由研究だよ。モンタ博士も見せてもらったよ。すばらしかったね。」